

見つけたものをかいてしらせよう

日時 令和3年9月30日(木) 公開授業①
児童 男子5名 女子5名 計10名
指導者 立花 はるか

1 単元の構想

<児童の実態>

- ・助詞「が」「は」「を」「へ」の使い方を知り、短文を作る学習をくり返し行っている。
- ・経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を考えて文章を書く学習をしてきている。

<単元について>

◎「はっけんしたよ」(東京書籍 新しい国語 一下)

本単元は、「説明・報告する文章を書く」ことについて学習する系統の単元として位置付けられている。これまで、自分が経験したことの中から書くことを決め、それについていくつかの文を書くことを行ってきたが、見たものを文章で書いて様子を伝えることは初めてである。自分の見つけたものの様子が読む人に伝わるように、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にして書くことに適した教材であると言える。本単元の学習を通して、見つけたものをよく見て文章を書く力を身に付けることを目指す。

付けたい力

よく見て書く力

単元に位置付ける言語活動

学校で見つけたものを観察し、様子を伝える文章を書く。

2 研究の柱にかかわって

研究の柱2 ①思考の共有・可視化

本単元では、学校で見つけたものを観察し、様子を伝える文章を書く言語活動を行う。これまでの学習では自分の経験について思い出しながら書くことが多かったが、今回はものの様子を言葉で伝えられることが必要になる。そこで、観察を2回に分けて行い、ものをよく見て、様子を言葉にする時間を十分にとれるようにする。1回目の観察は実物を見て、気付いたことを短い言葉でメモしていく。2回目の観察は、タブレットで撮った写真を用いたワークシートに、1回目に観察して気付いたことに加えて、さらに気付いたことを書き込んでいく。写真を撮ることで、観察する状態のものを残し、文章を書くのに困っている子どもに対して、教師も写真を見て声を掛けることができる。その後、同じものを観察した人同士で、観察して気付いたことの交流を行う。ワークシートを使うことで、同じものを観察した人同士でも表現の違いがあることを楽しんだり、友達から良い表現の仕方を学んだりできるようにしたい。今回の観察では「目・手・鼻・耳・心」の五感を使って観察していく。観察の際に五感を意識できるように、マークを作り、どの感覚を使って感じ取った様子なのかも示していきたい。

研究の柱3 ②各学年で使わせたい語彙の活用

この学習では、見たものを伝えるために色・形・におい・動き方などものの様子を表す言葉を知ることが必要になる。学級で言葉集めを行ったり、教師が言葉を提示したりすることで、使える言葉を増やしていきたい。また朝学習や家庭学習を使って言葉選びゲームや短文づくりを行い、言葉に慣れるようにしたい。

3 単元の学習計画

(1) 単元の指導目標

- ①長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方を理解して，文や文章の中で使うことができる。〔知識及び技能〕（1）ウ
- ②身近なことを表す語句の量を増し，文章の中で使うことができる。〔知識及び技能〕（1）オ
- ③経験したことから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕B（1）ア
- ④言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力，人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長音，拗音，促音，撥音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方を理解して，文や文章の中で使っている。((1)ウ) ②身近なことを表す語句の量を増し，文章の中で使っている。((1)オ)	①「書くこと」において，経験したことから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	①進んで，経験したことから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりしながら，伝えたいことを明確にし，学習の見通しをもって，様子を伝える文章を書こうとしている。

(3) 単元の指導と評価の計画（8時間）

時	主な学習活動	指導の手立て	評価規準（評価方法）
1	○学習の見通しをもつ。 ・学校で観察した動植物の様子を伝える文章に書き，家の人に読んでもらうことを確かめ，学習の見通しをもつ。	・これまでの学習を振り返り，書く活動に対して抵抗感が出ないようにする。 ・相手意識を明確にすることで，文章を書く意欲をもてるようにする。	
2 3 4	○「はっけんメモ」を書くときに，大事なことを考える。 ・教科書P39の「はっけんメモ」からメモに書くことを確かめる。 ・メモに書くときは短い言葉で書くことに気付く。 ○観察するものを決め，「はっけんメモ」を書く。 ・観察するものを決め，項目や観点到に沿って「はっけんメモ」を書く。 ・写真を用いたワークシートに気付いたことを書き込み，使っていない観察のポイントはありますか確	・「見た日」「見た場所」「気付いたこと」の3つに分けてメモに書くことを抑える。 ・気付いたことは五感を使って，調べることを確かめる。 ・1回目の観察で，観察するものの写真を撮るように指示を出す。 ・「目・手・鼻・耳・心」を使って観察できるように，板書や壁面などに観察のポイントをまとめておく。	【思・判・表①】 学校にあるものから書くことを見付け，様子を伝えるために必要な事柄を集め，伝えたいことを明確にしているか確認する。(はっけんメモ)

	かめる。 ・「はっけんメモ」を友達と交流し、表現の違いや新たな表現の仕方を知る。	・他の人の「はっけんメモ」を見る機会を設けることで、様々な見方や表現の仕方があることに気付かせる。	【知・技②】 見つけたものの様子を表すために、集めた言葉や掲示してある言葉を使っているか確認する。(はっけんメモ)
5 本時 6 7	○「はっけんメモ」を基に、観察した動植物の様子を伝える文章を書く。 ・教科書の「はっけんメモ」と「けんたさんの文章」を比べ、書き方を確かめる。 ・書くときの留意点に気を付けながら短冊に文章を書く。 ・自分で読み直す。 ・清書する。 ○文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・お互いに読み合い、感想を伝える。	・「はっけんメモ」と「けんたさんの文章」を比べ、メモの内容のまとめ方、文の書き方を抑える。 ・原稿用紙の使い方を確かめられるように壁面に掲示する。 ・読み直す時は、誤字・脱字がないかを自分で確かめるように声を掛ける。 ・友達の書き方でよいと思ったところを見つけながら読むように指示する。	【知・技①】 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」、「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、様子を伝える文章を書く中で使っているか確認する。 (ワークシート) 【主体的①】 進んで、学校にあるものから書くことを見付け、様子を伝えるために必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、様子を伝える文章を書こうとしているか確認する。(ワークシート、発言)
8	○学習を振り返る。	・様子を伝える文章を書くときに大切なことをまとめ、今後に生かすことができるようにする。	

4 本時の指導（5時間目／全8時間）

(1) 目標

「はっけんメモ」を基に、観察したものの様子が分かるように文章を書くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点（・） 評価
つ か む 3 分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">「はっけんメモ」を使って、見つけたものの様子を伝える文章を書こう。</div>	・前時まで、観点に沿ってはっけんメモを書いたことを確認する。
か ん が え る ・	3 書き方を確認する。 ・教科書のメモ例と文章例を比べ、書かれている順番や書き方を確かめる。 <書かれている順番> ①見た日・見た場所・見たもの ②気付いたこと ③思ったこと	・メモ例と文章例を拡大したものを掲示し、全体で比べながら、書かれている順番や文章の書き方に気付かせていく。 ・メモを文にする書き方は、板書に残し、自分で文を書く際に手掛かりにできるようにする。

<p>あ ら わ す 37 分</p>	<p><書き方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモと様子を伝える文章では文末が変わる。 ・①②③でひとマスあける。 <p>4 「はっけんメモ」を基に短冊に文章を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①は全員で合わせて書く。 ・②は1つだけ全員で合わせて書き、2つ目から自分で書く。 ・③は全員で合わせて書く。 <p>5 短冊を並べ替える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書かれている順番」を基に自分で3つの短冊を並び替える。 <p>6 間違いがないか、確かめる。</p> <p>(1) 自分で声に出して読む。</p> <p><確かめること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤字・脱字がないか。 ・伝え忘れていることはないか。 <p>(2) 隣の人と交換して読む。</p> <p><確かめること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤字・脱字がないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で確認しながら書く部分と一人で書く部分に分けることで、書くことが苦手な子どもが書けるようにする。 ・全体で書く文を声に出して確認する時間を設け、子どもが書くことを考えることができているかを見取りながら進める。 <div data-bbox="842 689 1433 869" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知・技①】 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」、「を」の使い方、句読点の打ち方を理解して、様子を伝える文章を書く中で使っている。(ワークシート)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・板書にある「書かれている順番」を参考にしなが、短冊を並び替えられるように助言する。 ・脱字に気付いた時には、消して直すのではなく、隣に付け足してもいいことを伝える。 <div data-bbox="842 1173 1433 1375" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的①】 進んで、学校にあるものから書くことを見付け、様子を伝えるために必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって、様子を伝える文章を書こうとしているか確認する。(ワークシート、発言)</p> </div>
<p>ふ り か え る 5 分</p>	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <p>【振り返りの観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたこと ・よかったこと ・むずかしかったこと <p>上記の中から1つ選んで書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文で書くことが難しい時には、記号での振り返りでもよいこととし、本時の学習の成果を自己評価できるようにする。

(3) 評価

おおむね満足できる	努力を要する児童への支援
<p>「はっけんメモ」を基に、言葉や助詞の使い方、原稿用紙の使い方に気を付けながら、文章を書くことができる。</p>	<p>メモを文章にするのが難しい子どもには、教科書の例文を基に、言葉を置き換えながら、一緒に文章を考える。</p>